

2025年度「あいち食育いきいきプラン2025」の主要な取組

1 食を通じて健康な体をつくるための取組



- ・栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 1
- ・野菜の摂取量向上の取組【健康対策課】・・・・・・・・・・ 2

2 食を通じて豊かな心を育むための取組



- ・農林漁業体験学習推進支援への取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 3
- ・農林水産業への理解と地産地消の推進への取組【農政課】・・・・・・・・ 4

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための取組



- ・学校給食における地域の産物の活用に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・ 5
- ・地産地消の推進に向けた取組【食育消費流通課】・・・・・・・・・・ 6

4 食育を支えるための取組



- ・食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組【食育消費流通課】・・・ 7



栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

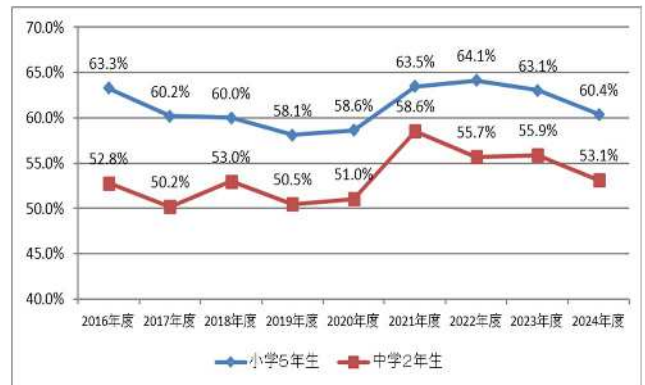
あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状				目標 (2025)
		2021	2022	2023	2024	
朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2%	92.6%	90.7%	91.3%	88.9%	98%以上
朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9%	61.9%	61.5%	60.7%	57.9%	80%以上

1 現状と課題

2024年度の朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合は、88.9%と前年度から2.4ポイント下がった。食べない理由として「朝なかなか起きられない」ことや就寝時間が遅くなっているといった結果がある。生活リズムを整える、「早寝・早起き・朝ごはん推進運動」を強化していく。

朝食に野菜を食べている小中学生の割合は大きく下がった。野菜の高騰等課題が多いが、バランスの良い食生活の大切さについて、今後も学校から保護者へ働きかけてもらうよう、研修会や大会で呼びかける。



朝食に野菜を食べている小中学生の割合

2 主な取組

(1) 2024年度取組実績とその「SHIN化」

「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」(以下「朝ごはんコンテスト」という)については、7,006点の応募があった。バランスの良い朝食に関する研究事例の紹介等を、学校関係者、栄養教諭等に向けた各種研修会で行った。

【SHIN化の内容】〈新化〉

朝ごはんコンテストは、共催する愛知県学校給食会から、参加者を増やすための参加賞の配付、今後の参考とできるよう優秀作品100点と本選動画のWEB公開等が始まった。取組が浸透する2025年度以降の応募者数増が期待される。

(2) 2025年度以降の取組(予定)

- 朝ごはんコンテストの実施(提出〆切を伸ばした。)
- 保護者向け食育資料の提供、「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動の実施
- 学校関係者向け、食育に関する各種研修会での事例紹介

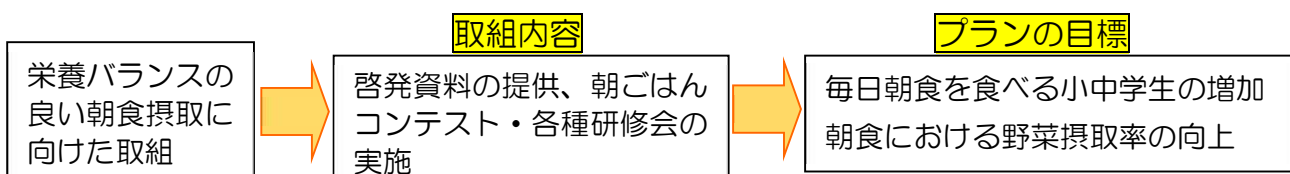


朝ごはんコンテスト最優秀作
「余るウズラを「いざ救出だ!」たくさん飲んで朝から元気!」



好評を得た参加賞(クリアファイル)

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





野菜の摂取量向上の取組

保健医療局健康医務部健康対策課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状				目標 (2025)
		2021	2022	2023	2024	
毎日野菜を3回以上 食べている成人の割合	17.7%	17.5%	—	17.3%	—	20%以上

1 現状と課題

毎日野菜を3回以上食べている成人の割合は、2020年度から増加していない。

「2022年愛知県生活習慣関連調査」では、野菜料理を食べない理由は「用意する手間がかかる」と回答した人が多く、外食等利用頻度と野菜摂取頻度に関連があった。手軽な野菜摂取や外食等における野菜料理を選択できる環境づくりを推進し、野菜の摂取機会を増やすことで野菜摂取量の増加を図る必要がある。

2 主な取組

(1) 2024年度取組実績とその「SHIN化」

子育て世代を対象に、8月31日から1か月間を取組強化期間とし、イベントや保育園等でポスターやぬりえを活用した手軽な野菜摂取を働きかける普及啓発を実施した。

働く世代に向けては、事業所社員食堂等で野菜料理の選択を促す食環境づくりを支援した。

【SHIN化の内容】〈伸化〉

市町村・大学・飲食提供施設等の関係団体と連携し、カット野菜の活用を始めとした手軽な摂取方法を提案するなど野菜摂取量の向上を図る具体的な取組ができた。



大学生と連携した普及啓発

(2) 2025年度取組（予定）

普及啓発及び食環境づくり支援に引き続き取り組むとともに、リニューアルした食育推進協力店登録事業において、野菜たっぷりメニューの提供や野菜の追加サービスができる店舗の登録促進を図り、県民が外食等においても野菜料理を選択できる環境づくりを推進する。

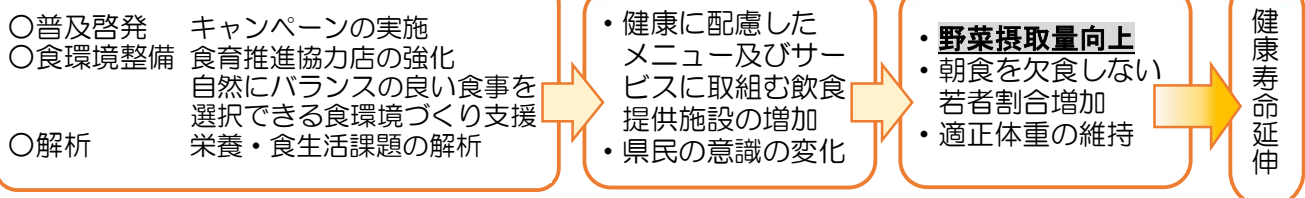


ぬりえ



ポスター

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





農林漁業体験学習推進支援への取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状					目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	
農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合	77.8%	68.5%	69.8%	71.1%	73.0%	72.9%	80%以上

1 現状と課題

2024年度の農林漁業体験に取り組む小学校の割合は、72.9%と微減であった。コロナ禍に大きく落ち込んだ後、回復傾向にある。ただ目標には届かない現状があるので、地元の農家やＪＡなどと呼んで行う農業体験学習等、各方面の協力を得て情報発信、情報提供を今後も積極的に行う。



みかん栽培（蒲郡市立蒲郡西部小学校：第2回あいち食農教育表彰教育委員会賞）

2 主な取組

（１）2024年度の取組実績とその「SHIN化」

学校関係者、栄養教諭等向けの各種研修会で、研究校の食育（農林漁業体験を含む）に関する事例発表を行った。

食育消費流通課作成の小学校における農林漁業体験学習の啓発チラシ「授業、クラブ・課外活動などに『農林漁業体験学習』を積極的に取り入れてください！」、「食育推進ボランティアに食育活動を依頼してみませんか！」を小学校等に送付した。

水産課より、水産業への理解を深めるためにパンフレット「愛知県の水産業」と下敷き「愛知県の主要な水産物」が小学5年生に配布された。

【SHIN化の内容】〈伸化〉

愛知県教育委員会とＪＡグループ愛知との相互連携に関する協定締結に基づく、「第2回あいち食農教育表彰」がＪＡ愛知中央会主催で行われた。都市部の学校や中学校からの応募もあり、各学校で行われている農業体験について、模範的な取組が新聞等で報道されることで、農業体験への興味・関心が高まり、先進事例として周知が図られた。

一方で、「大治や愛知の魅力を感じる学校給食の日」や「東栄町の秋の味覚を味わおう！」の設定等、愛知を食べる学校給食の日を機に、各市町村独自の地産地消の推進も行われている。

（２）2025年度以降の取組（予定）

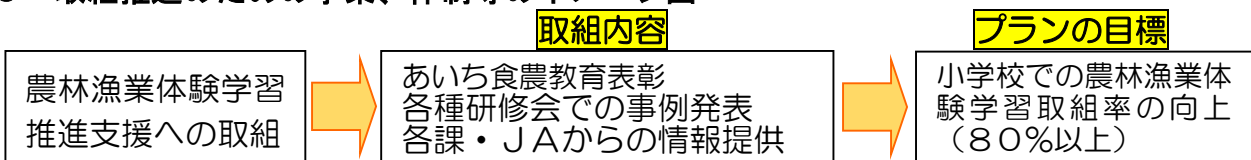
○「あいち食農教育表彰」を通しての農業体験の拡充

※愛知県教育委員会からの応募依頼発送に合わせて、応募の増加の呼びかけとともに、農業体験の更なる拡充を呼びかける。

○各種研修会における研究校の農林漁業体験に関する事例発表

○各課（食育消費流通課、水産課等）の体験学習に関する情報提供

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





農林水産業への理解と地産地消の推進への取組

農業水産局農政部農政課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状					目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	
県等が実施するイベントや 農林漁業体験の参加者数	14.6万人	13.4 万人	13.6 万人	15.0 万人	16.8 万人	16.3* 万人	18.5万人 以上

※2024 年度は推定値(とりまとめ中)

1 現状と課題

県民に農林水産業や農山漁村への理解を深めてもらうための手段の一つとして、花と緑のイベントや、試験場公開デー、出前授業など各種イベントや体験活動等を実施している。

屋外で実施する農林漁業体験やイベントは、大雨や猛暑などに参加者数が影響されることがある。開催場所や開催時期を調整し、効果的な周知を図るなど、より多くの県民がイベントや体験活動に参加できるようにする必要がある。

2 主な取組

(1) 2024 年度の取組実績とその「SHIN 化」

県等が実施するイベントや農林漁業体験に 16.3*万人が参加した。

ア 県が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数 8.9 万人

農業総合試験場公開デー、花と緑のイベント、森林・林業技術センター公開デー、小中学生対象の森林づくりの体験活動、森と緑づくり体感ツアー、水産試験場公開デー、畜産フェスタ、畜産加工実習、出前授業等（水産・農業農村整備）

イ 県が把握する多様な主体によるイベント等への参加者数 7.4*万人

○子供世代向け

小中学生を対象とした農林漁業体験、漁業者による出前授業への参加

○大人世代向け

市民農園・農業体験農園・農業塾での農業体験、県民を対象とした森林・林業体験

【SHIN 化の内容】〈新化〉

大雨や猛暑の影響により、参加者は計画を下回る結果となったが、開催方法を見直したイベントでは、昨年度より参加者数は増加した。

今後はより農林水産業や農山漁村に興味を持ってもらうために開催場所や開催時期、イベント内容等の見直しを行い、継続した啓発による県民の理解促進を行う。

(2) 2025 年度の取組（予定）

県民の本県農林水産業への関わりを深めるため、引き続きイベント等を開催していく。



試験場公開デーの LIVE 配信



森と緑づくり体感ツアー

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【農林水産業に係るイベント等の開催】

○県が実施するイベント等

○市町村・関係団体等が実施するイベント等

農林漁業を応援・
体験し参加する
機会の提供

農林水産業や農山
漁村への理解を深
める県民の増加



学校給食における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

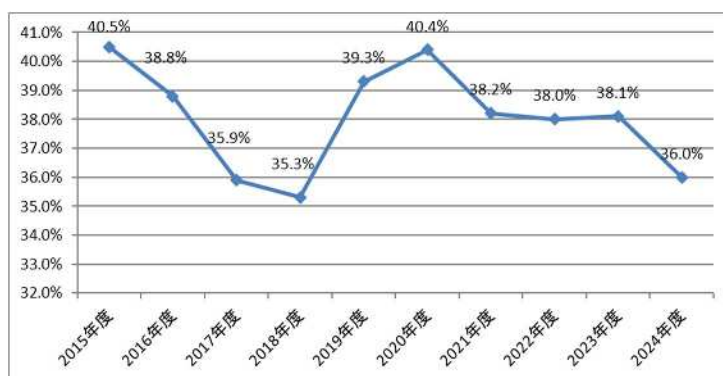
あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年	現状					目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	
全食品数に占める 県産食品数の割合(%)	40.4% (2020)	—	38.2%	38.0%	38.1%	36.0%	45%以上
年間に使用した 県産食品の種類	55 (2019)	57	58	59	55	—	60種類 以上

1 現状と課題

2021 年から横ばいが続いていた全食品数に占める県産食品数の割合は、大きく数値を下げた。年間に使用した県産食品の種類についても、増加傾向から一転 55 種類と減少に転じた。価格高騰や天候不順等が原因であり、今後も続くと予想される。

今後も、地域の産物を活用することが、児童・生徒の豊かな心を育み、SDGs にもつながる環境にやさしい取組となることを、関係機関や各学校へ働きかけていく。



全食品数に占める県産食品数の割合

2 主な取組

(1) 2024 年度の実績とその「SHIN 化」

全市町村において、地場産物を活用した学校給食を提供する「愛知を食べる学校給食の日」を年3回実施した。また、学校給食県産農産物使用促進に関する各市町村の担当との意見交換会を、食育消費流通課とともに毎年行っている。この他、学校給食における地場産物の活用に関する調査を実施し、地場産物を使用するうえで、「使用量が確保できない」85.2%、「価格が高い」「規格サイズが合わない」共に 64.8%等、地場産物の供給面の課題が続いている。

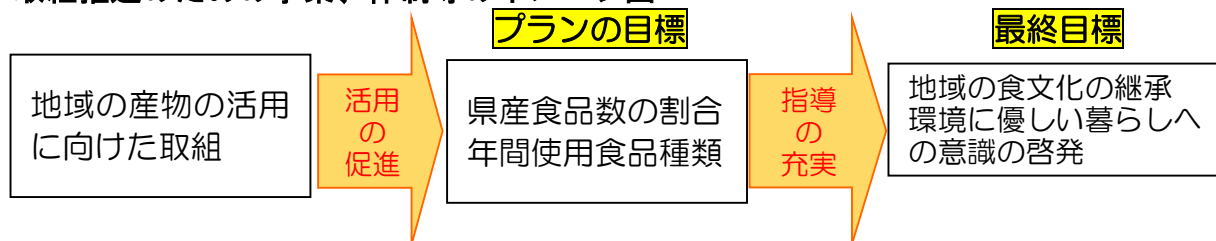
【SHIN 化の内容】伸化

「愛知を食べる学校給食の日」の取組に合わせて、地元の有機食材を使用した献立や、消費が落ち込んでいた地元産のうずら卵を使った献立を取り上げ周知することで、地産地消への関心がより高まるようにした。

(2) 2025 年度以降の取組（予定）

- 「愛知を食べる学校給食の日」の実施（年3回：6月、秋、1月）
- 学校給食県産農産物使用促進に関する意見交換会等を、食育消費流通課とともに実施
- 「学校給食における地場産物の活用に関する調査」の実施（11月）

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





地産地消の推進に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年	現状					目標 (2025)
	2020	2021	2022	2023	2024		
県産農林水産物を優先して購入する県民の割合	15.4%	13.3%	—	18.6%	—		25%以上
「いいともあいち運動」を知っている人の割合	22.7%	24.2%	—	22.2%	—		28%以上

1 現状と課題

2023 年度県政世論調査の結果では、「県産農林水産物を優先して購入する県民の割合」は 18.6%と 2021 年の 13.3%を上回った。また、「『いいともあいち運動』を知っている人の割合」は 22.2%で、2021 年度の 24.2%を下回った。

2022 年度から、地産地消が SDG s に貢献することを前面に押し出し、「地産地消あいち SDG s 推進キャンペーン」を行っており、地産地消の実践を促すための取組を一層推進する必要がある。

2 主な取組

(1) 2024 年度の取組実績とその「SHIN 化」

地産地消と SDG s の関連性を分かりやすく伝えるとともに、県産農林水産物を PR する動画を作成し、SNS 等を活用して発信した。

県産農林水産物を積極的に扱う「いいともあいち推進店」を巡る「地産地消あいちデジタルスタンプラリー」を 9 月から 2 月まで県内 478 店舗で実施し、延べ 19,425 人の参加を得て、県産農林水産物を PR し、見て、触れて、食べる機会を創出した。

また、同スタンプラリー参加店舗から選定した社員・学生食堂（2 社・2 大学）においてメニューフェアを実施した。

【SHIN 化の内容】〈新化〉

若い世代への地産地消の更なる浸透・定着を図るため、企業・大学と連携してメニューフェアを実施し、地産地消の理解促進と実践を促した。



地産地消メニュー

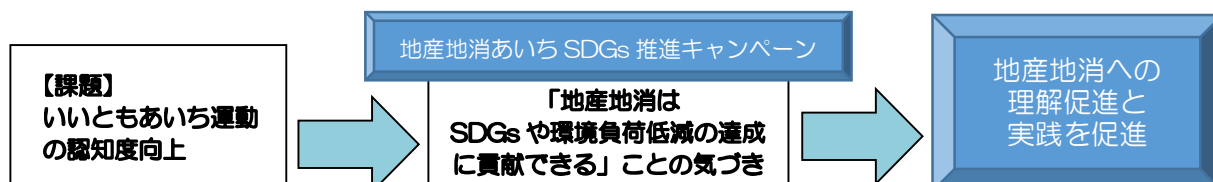
(2) 2025 年度の取組（予定）

いいともあいち運動の認知度向上を図り、SDG s を食の面から推進するため、県民が普段の生活の中で気軽に地産地消に取り組めるよう、「地産地消あいち SDG s 推進キャンペーン」をより一層「進化」させていく。

2025 年度は、引き続きデジタルプロモーション等の取組を行う。加えて、地産地消レシピコンテストを新たに実施し、県民に自ら SNS により情報発信してもらうことで、県産農林水産物に接する機会を創出する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

いいともあいち魅力向上推進事業 うち SDG s 貢献あいち地産地消推進事業





食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状					目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	2024	
食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	11.1 万人	1.3 万人	2.7 万人	5.7 万人	4.5 万人	6.8 万人	12 万人以上 /年間
食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数	227 回	138 回	287 回	289 回	352 回	316 回	240 回以上

1 現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「食育ボランティア」という。）」は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、2025 年 3 月末時点では、943 名が登録している。

2024 年度の「食育ボランティアから食育を学んだ人数」は 6.8 万人と前年から改善した。しかしながら、食育ボランティアの高齢化等の影響により、特に個人登録のボランティアにおいて基準年より大きく減少している。

一方、「食育ボランティアと学校・企業等との連携回数」は 316 回で目標に達しており、連携により活動の充実が図られている。

2 主な取組

（1）2024 年度の実績とその「SHIN 化」

環境に配慮した食生活をテーマとした「あいち食育いきいきシンポジウム」や「調理講習会」を開催した。

また、各地域において、食育ボランティアの知識及び技術の向上を目指した研修交流会を開催した。

更に、食育ボランティアの活動に関する動画を作成し、YouTube チャンネル「あいち食育いきいきチャンネル」で配信した。

- 「あいち食育いきいきシンポジウム」（参加者：60 名）
- 「保存食材の活用術を学ぶ調理講習会」（参加者：31 名）
- 「地域食育推進ボランティア研修交流会」（参加者：7 地域 193 名）

【SHIN 化の内容】〈進化〉

食育ボランティアの活動を多くの方に知ってもらうため、県職員が実際の活動の様子を取材し、動画を配信した。食育に関心の薄い方でも気軽に視聴できるよう、ショート形式の動画も配信した。

（2）2025 年度の実組（予定）

食育を支える多様な関係者の取組について学ぶシンポジウムや調理講習会を開催する。

また、2024 年度に引き続き、食育ボランティアと連携し、食育の実組を紹介する動画を作成、配信する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【ボランティアに対し】

- ・シンポジウムの開催
- ・調理講習会の実施
- ・研修交流会の実施

食育推進
ボランティアの
資質向上

学校・企業・団体
と連携した
ボランティア活動

< 目標 >

県民の「食育の実践力」の向上

- ・健全な食生活
- ・心身ともに豊かな暮らし



シンポジウムのアーカイブ動画



食育ボランティアの活動取材動画



あいち食育いきいきチャンネル